

国語		教科用図書選定にかかる専門調査会調査結果			
東書					
<p><b>1. 大阪市教育行政基本条例・教育振興基本計画に基づく観点</b></p> <p>全ての生徒の学びが確かなものとなるよう、文字の大きさ・書体、罫線や罫みの使い方、色遣いに工夫がなされ、ユニバーサルデザインが採用されている。また、現代活躍している作家による各作品や、「世界に届ける言葉」「心を動かす言葉」などの教材は、手話や点字に関する教材を扱い、特別支援教育の充実に対応している。幅広い知識・教養と思考力、豊かな人間性、伝統文化を受け継ぐ心、未来を切り開く創造性と公共の精神を重視した学習教材が採用されている。さらに、単元ごとに設けられた「学びの窓」は、読解を深めるための設問が豊富にあり、学力の向上に対応されている。ただ、古典作品の紹介のしかたが、生徒の興味・関心を引きつけることが難しい内容である。巻末の「言葉を広げよう」は、生徒の語彙の拡充に役立てやすい内容である。〈①④⑥⑧⑩〉</p>					
<p><b>2. 教育基本法に基づく観点</b></p> <p>幅広い知識・教養と思考力、豊かな人間性、伝統文化を受け継ぐ心、未来を切り開く創造性と公共の精神を重視した学習教材が採用されている。ただ、古典作品の扱いにおいて、教材の文章量が多い。(2年平家物語の冒頭「祇園精舎」) また、1年生でも古文の量が多く、環境をテーマにした教材が少ない。〈①②③④⑥〉</p>					
<p><b>3. 学習指導要領に基づく観点</b></p> <p>多様な言語活動を通して、現代社会を正しくとらえ見通す力をつけると同時に「話すこと・聞くこと」「読むこと」「書くこと」の力を育成し、言語に関する知識や技能、思考力・判断力・表現力の習得のために、有効な編集がなされている。また、伝統的な言語文化が重視されており、伝統文化について深く学習することができる。言語事項の文法学習では、導入・展開・まとめが系統的にわかりやすくまとめられており、学習者への配慮がされている。さらに、「読書案内」では、本文の一部とあらかじめ載っており、読書への意欲を喚起させる内容になっている。ただ、読み物の教材が多く、内容的に重厚な作品が集中しているために、解説が少なく、スムーズな授業展開がしにくい。書くことの活動について、例文において指導しにくい。読むことの活動について、二段組み教材の「注」や「新出漢字」のレイアウトに工夫が足りない。〈①⑩〉</p>					
<p><b>4. 全国学力・学習状況調査の結果に基づく観点</b></p> <p>レポートや手紙、スピーチ、多様な話し合い、マルチメディアの活用など、実生活で生きる言語活動が豊富に扱われている。また、複数の文章の読み比べや、図表を読み取ったり、作成したりする活動が全学年に採用されている。さらに、例として挙げられている図表や、書き方が複数提示されていて、活用しやすい。ただ、意見交流の方法については、発展的なものが少ない。〈①②④〉</p>					
<p><b>5. 外的要素に関する観点</b></p> <p>製本は堅牢で、紙質や色もよく、文字の書体も工夫されていて読みやすい。一部の挿絵は大きすぎるところがあるが、配置や色遣いは適切で美しいレイアウトである。掲載されている写真も、どれも鮮明で美しく、生徒の興味・関心が十分に引くものである。〈①②③〉</p>					
<p><b>6. 構成・配列に関する観点</b></p> <p>本編・基礎編・資料編の三部構成になっており、発達段階を考慮して、各領域がバランスよく配列されている。基礎編・資料編には自学自習できる学習教材が多く、学習の深化や拡充を図りやすい。また、資料の提示のしかたが、授業者の立場で作られており、生徒にとってわかりやすい。ただ、1年の教材は難易度が全体的に高く、古典の教材も多いため、生徒には難解ととらえられる可能性が高い。〈①②③④〉</p>					
<p><b>7. 資料その他に関する観点</b></p> <p>「言葉の力」一覧や「学習用語」一覧を用いて、具体的に学習内容を見通したり、振り返ったりできるよう工夫されている。また、「言葉を広げよう」では、全て例文が示されていて、生徒の語彙を豊かにするための工夫がなされている。しかし、教科書の手引きの部分などに記入するスペースや吹き出しがかなりのスペースで設けられており、工夫が少ない。〈①②〉</p>					

国語	教科用図書選定にかかる専門調査会調査結果				
学 図					
1. 大阪府教育行政基本条例・教育振興基本計画に基づく観点					
<p>自他の敬愛と協力を重んずる精神とともに、幅広い知識と教養を身につけられるよう配慮された教材が多い。特に、特別支援教育の充実に関わる教材として、「指文字・手話」「点字表記」「ピクトグラム」に触れている。また、情報の捉え方を学ぶ教材を通じて、主体的に社会の形成に参画し、寄与する態度を養うことをめざすものとなっている。学習成果も確認できるよう、読解・思考・知識などの領域別到達度が具体的に示されている。また、国際的な文化交流や社会情勢などの事実・歴史を、生徒にとってわかりやすく誤解がないよう理解させるための配慮が必要である。個人の価値を尊重し、創造性を培い、自主自立の精神を養うことをめざし、社会に大きな影響を与えた人物の姿を描いた文章を扱っている。しかし、大阪にゆかりのある人物の教材について、大阪を象徴する芸術的建造物を掲載していないため、郷土愛を育むには足りないところがある。〈②③④⑥⑦⑧⑩〉</p>					
2. 教育基本法に基づく観点					
<p>身近な人間関係から我が国の社会・文化を経て、国際関係に至るまでの現代を構成する幅広い対象について、系統的に取り扱うことのできるテーマ別単元構成を採用している。個性や創造性にあふれた教材を多数取り上げ、それらを尊重し進んで身につけ、自律した生活人・職業人をめざそうとする態度と意欲を喚起する内容である。古文教材は、中学生にとっては難解な文章が多く、取り扱う内容に偏りがある。〈①②⑤〉</p>					
3. 学習指導要領に基づく観点					
<p>生徒の「生きる力」を育むために、交流や共有を軸とする言語活動を行わせることを基本としている。基礎的な言語能力の習得を図り、獲得した言語能力を活用することによって、思考力・判断力・表現力が高められるよう工夫されている。また、読解力を養成するための教材については、学習後にその成果が確認できるよう、領域別到達度を具体的に示し、着実な前進と達成感が得られるよう配慮されている。話し合い・読み合い・相互評価などの表現活動が具体的な例や図で示されており、生徒にとって活動しやすいよう工夫されている。また、適切に表現し伝え合う能力や思考力・判断力の育成を図っていくように配慮されている。批評力・思考力に発展させるために、読者反応論やメディアリテラシーについての国内外の研究成果を全面的に採用している。〈①⑩〉</p>					
4. 全国学力・学習状況調査の結果に基づく観点					
<p>読解教材の脚注に注意すべき語句が多数提示されているためわかりやすい。また、インタビューやプレゼンテーション、ディベート、グループディスカッションなどの言語活動について、具体的な実践方法を多数の図や例で示しており、学習者が主体的かつ意欲的に取り組むことを可能にしている。さらに新聞記事や物語・詩・随筆を書く、意見文・批評文を書くなどの活動を通して、根拠を明確にして書いたり、伝えたい事柄を明確にしてわかりやすく書いたりする力を育成するよう配慮されている。各活動が、具体的でわかりやすい図と文で説明されており、主体的に取り組みやすいものである。〈①③④〉</p>					
5. 外的要素に関する観点					
<p>カラー印刷の写真や図を示しており、見やすくわかりやすい。脚注にも写真をつけ、理解を助けるものである。ただ、読書教材の多くが、二段組みで通常よりも小さなフォントになっているために、読みにくい印象がある。また、イラスト・写真の配置が大胆すぎて、読書教材の文章配列が一定に整っていないものがあり、読みづらいところがある。古文教材の多くは、原文の左側に色・フォントを変えて口語訳を添えているが、フォントが小さく読みづらい。書体が全体的に読みにくいため、工夫が少ない。〈②③〉</p>					
6. 構成・配列に関する観点					
<p>発展的な学習内容の教材には、分かりやすくカラー印刷で「発展」と明示されており、生徒の意欲や学習到達度に応じて取り組めるよう配慮されている。また、多様な言語活動や思考活動、読解活動を通じて、思考力や想像力を段階的に発展させられるよう教材が配置されている。培われた思考力を批評力にまで高められるよう、発展的な学習課題も設定されている。〈③④〉</p>					
7. 資料その他に関する観点					
<p>巻末資料として文語文法や古語辞典が掲載されており、発展的な学習が可能である。ただ、古典分野の写真や図が少なく、漢字学習の資料の工夫が乏しい。「学びの窓」には「自学自習のための手引き」とあるが、書き込み式のページが多く、使いづらいレイアウトである。〈②〉</p>					

国語	教科用図書選定にかかる専門調査会調査結果				
三省堂					
<b>1. 大阪府教育行政基本条例・教育振興基本計画に基づく観点</b>					
<p>グローバル化が進む国際社会で力強く生き抜くために対話や合意形成などを身につけ、論理的な思考力・判断力・表現力などを高めることができるよう、21世紀型能力を育成するアクティブ・ラーニングに対応した教材が充実している。基礎的・基本的な知識や技能を習得し、習得したことを自覚して、繰り返し活用することを通して定着させるよう、各領域とも学習の方法や重視する観点を明確に示している。特に、「読むこと」の「読み方を学ぼう」や「話すこと・聞くこと」、「書くこと」の「ポイント」に工夫を凝らし、確実に習得できるよう配慮している。特別支援教育の充実への配慮としては、「読み方を学ぼう」でわかりやすい図解を用いて内容を視覚的にとらえられるようにするなど、多くの工夫がなされている。また、色覚の特性を考慮し学びやすい配色にしたり、識別しにくい配色は避け説明文などの補助的な手がかりを設けたりするなど、カラーユニバーサルデザインに向けたさまざまな工夫がある。〈①②④⑤⑥⑧⑨⑩〉</p>					
<b>2. 教育基本法に基づく観点</b>					
<p>真理を求める態度、豊かな情操と道徳心を養うことができる教材が全学年に採用されている。また創造性、自主・自立の精神、勤労を重んじる態度を養うことができる教材が全学年に採用されている。主体的に社会に参画する態度を養うことができる教材も全学年に採用されている。生命・自然の尊重、環境保全に寄与する態度を養うことができる教材が全学年に採用されている。伝統と文化を尊重し、他国を尊重して国際平和へ寄与する態度を養うことができる教材が全学年に採用されている。〈①②③④⑤〉</p>					
<b>3. 学習指導要領に基づく観点</b>					
<p>協同的な学習の基盤となる「場づくり」を重視した教材、対話型コミュニケーションや協同的な問題解決を位置づけた教材を配列し、仲間とともに学習の達成感を得られるようにしている。また、生徒の興味・関心を喚起する多彩な言語活動を取り上げて教材化されている。さらに、本の帯づくり・ブックトーク・ビブリオバトルなどの多彩な読書活動を採用し、生徒の興味・関心の幅を広げ知識を深め、読書に親しむとともに、読書を通してもの見方や考え方を広げ、自己を高めようとする態度を育てよう工夫している。〈①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫〉</p>					
<b>4. 全国学力・学習状況調査の結果に基づく観点</b>					
<p>各学年の「学びの道しるべ」の「学びをひろげよう」では、文章や図表の効果を考える課題、調べたことをまとめて発表する課題、条件をふまえて意見を述べる課題、読み比べる課題など、学力の定着・向上に資する多様な効果的な言語活動を設定している。対話型のコミュニケーションスキルを養う教材が多く採用され、話の流れを捉えて話し合ったり、互いの発言を検討したりする力を育成できるようになっている。また、資料編では多様な辞書の活用の仕方を3学年にわたって系統的に示している。辞書を活用して語彙を豊かにし、確かにするための工夫が図られている。根拠を明確にして考えを述べることや文章構成を工夫して説得力のある文章を書くことについての方法がわかりやすい。〈①②③④〉</p>					
<b>5. 外的要素に関する観点</b>					
<p>生徒の発達段階に応じた文字の大きさの工夫がなされ、明朝体・ゴシック体等を適宜使い分け情報が整理しやすく、学習しやすいように工夫している。挿絵・図版を適所に配置し、生徒の学習意欲を喚起し、内容の理解を支えている。また、「読み方を学ぼう」や「話すこと・聞くこと」、「書くこと」教材の「ポイント」、図解による解説を用いることによって、生徒に理解しやすく記憶に定着しやすくし、学んだことを活用しやすいように工夫されている。〈①②③〉</p>					
<b>6. 構成・配列に関する観点</b>					
<p>指導事項の系統性・連続性が学年内においても学年間においても重視され、体系的な学習指導が工夫されている。基礎的・基本的な知識や技能を習得し、繰り返し活用することを通して定着させていけるよう、各領域とも学習の方法や重視する観点を明確に示している。特に、各学習領域のポイントに工夫を凝らし、確実に習得できるようにしている。各巻末折込の「読み方を学ぼう一覧」は、既習の内容も含めて掲載し、折にふれて振り返って活用し、確かな力として定着できるよう工夫されている。〈①②③④〉</p>					
<b>7. 資料その他に関する観点</b>					
<p>各学年の資料編では、発想法・思考法の使い方、メモの活用の仕方、インタビューの仕方など、学ぶ力を高めたり知識を整理できたりする教材を配列している。「読む力を伸ばそう」では、自学自習にも対応し、個に応じた実践的な読みの力を高めるための新しい試みをしている。「日本文学名作集」「学習用語辞典」も大いに学習に役立つものである。ただ、読書紹介の冊数が少なく、紹介文が簡素過ぎるため、生徒の興味・関心を引くには工夫が少ない。〈①②③〉</p>					

国語	教科用図書選定にかかる専門調査会調査結果				
教出					
<p><b>1. 大阪府教育行政基本条例・教育振興基本計画に基づく観点</b></p> <p>プレゼンテーション能力を伸ばす教材が多く掲載され、工夫がみられる。また、メディアの功罪に言及する教材や自らの考えを書く内容が充実しているために、自己の判断と責任で「生きる力」を伸ばす能力の育成に配慮されている。さらに、古典教材を多数取り入れ、伝統を尊重する配慮がみられる。ただ、郷土の大阪を学習する機会は、2年生で方言の学習を単元として扱っている程度である。また、各学年で配色を変えているところがあり、系統的になっていない。また、ユニバーサルデザインによる、行数にドットを入れているところに工夫があり、生徒の理解向上に役立つ。〈②⑤⑥⑦⑩〉</p>					
<p><b>2. 教育基本法に基づく観点</b></p> <p>自然科学を題材にした教材が豊富であり、生徒の興味・関心を引く内容のものが精選されている。また、多種多様な古典文学を通じ、伝統と文化を尊重する態度を養えるよう教材を採用している。さらに、古典文学史年表などの資料も豊富であり、「日本の花火の楽しみ」など、古典教材以外にも日本文化や伝統を学ぶ教材を用意している点が工夫されている。ただ、古文教材の量が多く、内容を読み深めることに課題がある。〈②④⑤〉</p>					
<p><b>3. 学習指導要領に基づく観点</b></p> <p>1年生の「芸術作品の鑑賞文を書く」で、伝え合う力を高め、表現力を身に付けることができるようにされている。2年生で、教材ごとに「読書紹介」欄を設け、読書を生活に役立てる意識が育成できるよう工夫されている。3年生の「評価して読む能力」で、自己を向上させようとする能力の育成が配慮されている。全体的に学年ごとの段階的にレベルを上げ、「単元を貫く言語活動」を意識した教材が多い。社会生活に必要な「対話力」の育成を目標に、「持続可能な開発のための教育(E S D)」も視野に入れ、フリップを用いたの報告や図表も用いて説明するなど、多様な発信手段をあげている。〈①②⑦⑩〉</p>					
<p><b>4. 全国学力・学習状況調査の結果に基づく観点</b></p> <p>2年生の絵コンテの読み方を扱った教材では、写真やポスターから情報を引き出し、考えをまとめ活用する能力を高める教材が工夫されている。また、メディアリテラシーの意識を育む教材も採用されている。さらに、3年生の「情報を編集するしかけ」は、グラフから情報を読み取り整理する教材で、根拠を明確にした表現を育てる工夫がみられる。ただ、「話す・聞く」の領域に関する教材の取り扱いが少ない。〈①②③④〉</p>					
<p><b>5. 外的要素に関する観点</b></p> <p>字体が全体的に平たく見えるうえに、色調が薄く、粒子が荒いため、字が見にくい。また、再生紙・植物インクを使っているためか、色合いが全体的にくすんでおり、見にくい。また、挿絵や写真が少なく、生徒が親しみがしにくいところがある。全体的に字のポイントが小さいが、新出漢字を扱う部分のフォントは濃さや大きさは適切である。〈①②③〉</p>					
<p><b>6. 構成・配列に関する観点</b></p> <p>教材ごとに載せられている「みちしるべ」の発問の着眼点が、新しい視点になっていないために、取り扱いにくい。また「学びの重点」は、字の大きさが小さく例示が少ないため、用いるのが難しい。「手引き」が生徒に自学自習しやすい工夫が少ない。さらに、目次が授業の見直しを持って構成されていないので、生徒にわかりにくい。発展的学習教材を巻末にまとめているため、取り扱いにくい。〈①②④〉</p>					
<p><b>7. 資料その他に関する観点</b></p> <p>文法の説明が詳しく、登場人物にセリフを言わせるなど、親しみを感じさせる工夫がある。また、新出漢字について、音読み・訓読みの用例が出ていたり、巻末の「小学校で学習した漢字」をまとめたりして、漢字学習に関することについては、生徒が自学自習しやすくまとめている。〈②〉。</p>					

国語	教科用図書選定にかかる専門調査会調査結果				
光村					
1. 大阪市教育行政基本条例・教育振興基本計画に基づく観点					
<p>古典の導入には音読から題材を取り入れ、興味・関心を高めるよう工夫されている。3年生の資料「古典・近代文学の名作」は精選された内容で、生徒の興味・関心をひくものである。また、短歌や俳句、郷土ゆかりの作家や作品、四季折々の言葉などを数多く紹介し、日本語の表現に着目させている。さらに、世界のさまざまな国の文化や人々の生き方に触れることにより、人間の生き方や社会の在り方について考える教材や、戦争と平和、障がいの人々との共生、福祉などについて考える教材を取り入れるなど、道徳教育との連携、人権教育への配慮がなされている。全学年、活動の手順を明確化した「学習の見通しをもと」を掲載しており、教材と領域、身につけたい言葉の力や学習のポイントが示されている。生徒が学習の到達目標を意識して学習に取り組めるよう留意されている。◀③⑤⑥⑦⑧⑩▶</p>					
2. 教育基本法に基づく観点					
<p>1年生の教材で、戦時中の生活や死と隣り合わせにある主人公の心の機微に触れることができるものを取り上げている。また、伝統的な古典や近・現代の文学作品では、音読を味わう教材を積極的に取り入れており、興味・関心をもたしながら理解が深められるよう工夫されている。さらに短歌や俳句、郷土ゆかりの作家や作品、四季折々の言葉などを数多く紹介し、日本語の表現に着目させている。総じて、時代や生活様式の変化のなかであって、普遍的な人情や感受性などを扱った教材を多く取り入れている。巻末には全学年とも「色いろの言葉」、日本古来の色彩の名称について、色見本を挙げて説明しているが、色覚特性についての配慮が必要である。◀①⑥▶</p>					
3. 学習指導要領に基づく観点					
<p>「言葉への扉」では、親しみやすいイラストを用い、日常生活の身近なことをきっかけに言葉に対する関心を高めている。ただ、本編末の詳細な解説はよく整理されているが、文字が多いため、難解な印象を与える。全学年の「話すこと・聞くこと」では、学校生活や日常生活で即座に実践可能な題材を取り扱っている。全学年の「広がる読書」や「読書コラム」では、読書への意欲を喚起したり、自分の読書生活を振り返ったりする活動を取り入れている。さらに「書くこと」「話すこと・聞くこと」とも関連させた「読書紹介」などの手法も紹介している。文学史では、作者名や作品名にとどまらず、冒頭文も紹介していて、読書活動への扉を開いている。「レポートにまとめる」「修学旅行記を編集する」など、生活の場面に沿った題材が取り扱われている。対話型のコミュニケーションスキルを伸ばしたり、互いの発言を検討したりするような多様な読みが可能な教材がある。◀①②④⑤⑦⑧⑩▶</p>					
4. 全国学力・学習状況調査の結果に基づく観点					
<p>レポート、スピーチ、グループ・ディスカッションなどの多様な「話す」活動が示されている。また、全学年で情報教材や情報モラルについての題材が設けられてはいるが、写真やポスター・グラフなどから必要な情報を読み取り、いくつかの情報を組み合わせて判断したり、根拠を明確にして表現する能力を伸ばす教材が少ない。説明的文章における、辞書の引き方や目的に応じた辞書の選び方について説明した「調べる」の欄があるが、説明が少ない。文脈に沿って語句の意味を理解したり、適切な語句を選択したりするなど、文法事項との関連が明示されていない。◀②③▶</p>					
5. 外的要素に関する観点					
<p>長期間の使用に耐えられる堅牢で、表紙が防水加工を施している。光村図書が独自にデザインした明朝体は正しい字形を意識させる。印刷は鮮明で読みやすく、色覚特性に対応するため、配色や色調にも配慮している。挿絵や写真は主張しすぎず、教材内容の理解を助けるものである。また、教材を読み進める妨げにならぬよう配慮している。ただ、行数の表記が5行ごとであるため、工夫が必要である。◀②③▶</p>					
6. 構成・配列に関する観点					
<p>文章や写真の配列が絶妙で、必要に応じて段組みを採用する工夫がその効果を上げている。生徒が学習の見通しをもつために、教材冒頭に「目標」を明示している。また、身につけた力を振り返り、その後の学習に生かすための「学習を振り返る」も充実している。1年生では、国語学習の基礎・基本を確認する「声を届ける」「書き留める」などがある。学習を広げる「資料」は、学校の実情や個に応じて、補充的にも発展的にも扱うことができる。◀①②▶</p>					
7. 資料その他に関する観点					
<p>1年生の巻末資料、感想や感情を表す語句・抽象的な概念を表す語句は、より深い思考や表現活動に活用できる。巻末の折込資料「説明的（文学的）な文章を読むために」は、作品・文章の読み取りのポイントを簡潔に示しており、生徒の自学自習の助けとなる。ただ、採用されている教材が従前のものと大きな変化がなく、全国学力・学習状況調査を意識した学習展開への対応の遅れがみられる。◀①②▶</p>					